

平成 26 年度関係地権者等の意向醸成・活動推進調査業務

---

### **3. 各種合意形成活動の取り組み概要**

### 3. 各種合意形成活動の取り組み概要

#### 3-1. 「NB ミーティングの活動支援及び市民の意向把握」の取り組み

##### (1) 「NB ミーティング」の活動支援

###### 1) 取り組みのポイント

普天間飛行場を含めた宜野湾市のまちづくりに関わる市民側の検討組織である NB ミーティングでは、昨年度に引き続き大学生主体の組織と合同の定例会を開催し、NB ミーティングの新規メンバー獲得に向けた検討を行う。また NB ミーティングの認知度向上に向けては対外的な場に積極的に参加し、会の活動周知や活動への参加勧誘等を行うものとする。

###### 2) 主な取り組み

###### ①大山のタイモ畑の散策やタイモ使った食事の提供等を行う「タイモカフェ」を市民参加型のイベントとして開催

- ・市民が普天間飛行場の跡地利用や跡地利用が周辺地域に与える影響等を考えるきっかけづくりとして、「タイモ」を題材に市民が楽しんで参加できるイベント「タイモカフェ」を企画・開催した。
- ・「タイモカフェ」では、大山のタイモ畑と普天間飛行場のつながりを知ってもらえるよう、大山のタイモ畑周辺を散策したり、参加者にタイモ料理の提供等を行った。

###### ②「NB ミーティング全世代ディスカッション 2015」や「沖縄学生会議 2015」等の対外的な場への積極的な参加

- ・NB ミーティングの認知度向上を図るため、「NB ミーティング全世代ディスカッション 2015」や「沖縄学生会議 2015」等の対外的な場に積極的に参加した。
- ・対外的な場への参加によって、会の周知活動や今後の議論につながる新たな意見を把握することができた。
- ・「NB ミーティング全世代ディスカッション 2015」では NB ミーティングメンバーも登壇者として参加し、他の登壇者と新たなつながりを作ることができた。
- ・「沖縄学生会議 2015」ではオブザーバーとして参加し、登壇した学生と新たなつながりを作ることができた。



写真：定例会のようす



写真：タイモ畑散策のようす

### 3) 取り組みスケジュール

| No | 開催日    | 主な活動内容                                                                                                     |
|----|--------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1  | 4月15日  | ・今年度の活動の方向性の検討                                                                                             |
| 2  | 5月20日  | ・今年度の活動の方向性の検討                                                                                             |
| 3  | 6月17日  | ・タイモカフェ開催に向けた検討                                                                                            |
| 4  | 7月15日  | ・若手の会との合同勉強会<br>(テーマ：宜野湾市の自然環境について)                                                                        |
| 5  | 8月19日  | ・タイモカフェ開催に向けた最終確認等                                                                                         |
| 6  | 9月16日  | ・タイモカフェを振り返って<br>・今後の活動内容について                                                                              |
| 7  | 10月21日 | ・今年度の活動内容について                                                                                              |
| 8  | 11月18日 | ・前回の議論について（概要報告）<br>・今年度の活動内容について（企画案の説明、今年度の活動内容について、タイモカフェ【夜の部】について）<br>・平成26年度「先進地視察会」について              |
| 9  | 12月16日 | ・前回の議論について（概要報告）<br>・全世代ディスカッション2015及び沖縄学生会議2015の内容について<br>・今後の活動内容について<br>・平成26年度「先進地視察会」の概要報告            |
| 10 | 1月20日  | ・前回の議題について（概要報告）<br>・全世代ディスカッション2015等の開催について（報告）<br>・タイモカフェを振り返って<br>～タイモカフェで得たもの～<br>・平成26年度「先進地視察会」の概要報告 |
| 11 | 2月17日  | ・前回の議題について（概要報告）<br>・沖縄学生会議2015の開催について（報告）<br>・全世代ディスカッション2015を受けて<br>・若手の会・NBミーティングの意見交換会の開催について          |
| 12 | 3月20日  | ・若手の会とNBミーティングの意見交換会                                                                                       |

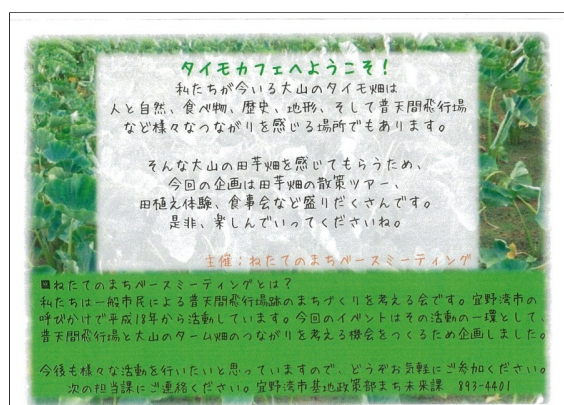
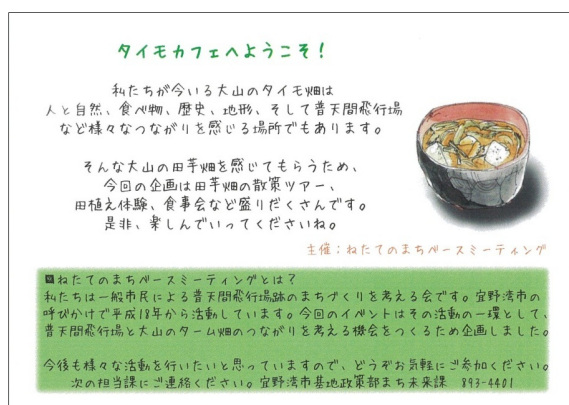
#### 4) タイモカフェの実施概要

- 開催日時：平成 26 年 8 月 23 日（土） 9：00～12：00
- 開催場所：サンキューファーム 他
- 内 容：①タイモ畑の散策ツアー  
②タイモを使った弁当やムジ汁等の試食
- 参加者：32 名（NB ミーティング、宜野湾市民 等）

#### ①当日のタイムスケジュール

| 時 間   | 内 容           | 備 考               |
|-------|---------------|-------------------|
| 09：00 | 受付            | 大山公民館にて受付         |
| 09：40 | 散策ツアー開始       | 畦道及び水路の生物探索、観察等含む |
| 11：30 | 食事（タイモ弁当、ムジ汁） | サンキューファームにて食事     |
| 13：00 | 解散            |                   |

#### ②ポストカード（当日参加者に配布）



#### ③タイモカフェのようす



写真：タイモ畑散策のようす①



写真：タイモ畑散策のようす②



写真：タイモ畑のようす①



写真：タイモ畑のようす②



写真：昼食のようす①



写真：試食したタイモ料理



写真：タイモ畑に関する紹介資料①



写真：タイモ畑に関する紹介資料②

#### ④タイモカフェに関する意見

##### 【良かった点】

- ・ 地域との交流が出来た事（和気あいあいとした雰囲気）。
- ・ 予想以上に人が集まり、また、若者が参加してくれた事で少し活性化につながった。
- ・ 半年前からタイモカフェ企画を進め、実際に実施し、本日のように反省会を持つ事が出来て NBM は進歩したのではないかと思う。
- ・ 参加者の中で活動に参加したいと言う人もいた。

##### 【反省点】

- ・ 跡地利用の人材育成という点で、普天間及びタームの跡地に関する事項が伝えられなかった。
- ・ タームカフェを楽しんでしまい、NB の紹介等情報発信やアンケートが出来なかった。
- ・ タームを切り口として、普天間を中心としたまちづくりを考える事が目的だったが、それが出来ていなかった。
- ・ 参加者へのアンケートが取れなかった。

## (2) 「NB ミーティング全世代ディスカッション 2015」の開催

### 1) 取り組みのポイント

普天間飛行場の跡地利用に関しては、「跡地利用は地権者の問題」という認識が根強く依然として市民の関心は低い状況がある。そこで、跡地利用に対する市民の関心の向上を図るきっかけづくりとして、「普天間飛行場跡地の持つ意義・意味とは？」をテーマに「NB ミーティング全世代ディスカッション 2015」と題した意見交換会を開催する。

「NB ミーティング全世代ディスカッション 2015」では 10 代～70 代までの各世代の方を登壇者として招き、世代を超えた意見交換を行うことで市民の跡地利用に対する関心の醸成を図る。また、併せて NB ミーティングの活動周知を行うことで会の認知度向上、新規メンバー獲得につなげる。

### 2) 開催概要

- 開催日時：平成 27 年 1 月 25 日（日） 14：30～16：30
- 開催場所：宜野湾ベイサイド情報センターGwave Cafe
- 内 容：①普天間飛行場跡地利用計画に係る取り組み状況の説明  
②「普天間基地の跡地が持つ意義/意味とは？」をテーマにしたディスカッション  
③懇親会
- 参加者：18 名（10 代～70 代までの登壇者 7 名、オブザーバー 11 名）



写真：宜野湾市による跡地利用に関する説明



写真：ディスカッションのようす①



写真：ディスカッションのようす②



写真：全世代ディスカッション参加者

### 3) 質疑応答・意見交換内容

|       |   |                                                                                                                                                                                                                 |
|-------|---|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 當     | 銘 | 普天間飛行場跡地の利用方法を考える前に、「跡地はどのような意味があるのか」という本質を考え、発展させていければと思う。本日のディスカッションは政治の話では無く、跡地利用を考えた未来志向の（わくわくする未来を考える）ゆんたくの場としたい。                                                                                          |
| 翁     | 長 | 私は海邦高校の生徒会長とも繋がりがあり、学生で基地問題に関するアンケートを取って雑誌に載せて頂いたり、HY さんに平和問題に関するインタビューを行おうという話もある事から、そういった取組に活かせる事ができればと思い本日参加させて頂いた。                                                                                          |
| 呉     | 屋 | 「跡地が持つ意義とは」という点について、イコール繋がりであると思う。市民と行政が一緒に考え、多機能的なまち・ものを作っていくという事であると思う。                                                                                                                                       |
| 佐藤（恵） |   | 私は宜野湾が好きなので、良いまちになって欲しいと思い参加した。                                                                                                                                                                                 |
| 親     | 川 | 映像を見て、こんなに計画が進んでいるのかと思いびっくりした。その前に、自分達（市民等）がここで跡地について話す事はどういう意味があるのか、という事をゆんたくしたいと思っている。                                                                                                                        |
| 牛     | 木 | これだけの人が住んでいる真ん中に新しい土地が出来るので、皆でどのようなまちに出来るのか考える事が素晴らしいと思っている。未来に向けて理想を追求し、そこから出来る出来ないを考え、皆の良い形を探して行ければと思う。                                                                                                       |
| 佐藤（努） |   | 私は3点思いがある。まず1つは、わくわくしている。2つ目は、NBMは高齢の方が多く若い方の意見を聞くことがなかなか無いため、若い人達がどのような事を考えているのかという事が非常に気になっている。3つ目は、まち作りを楽しく考えるという機会をもっと楽しみたいと思っている。                                                                          |
| 當     | 銘 | 基地が返還されると、広大な土地が一気に返ってくる事になるため、そこを宜野湾市、沖縄県民がどのようなまちにするのかという事を話したいと思う。                                                                                                                                           |
| 翁     | 長 | 半年前にアメリカに留学した事がある。沖縄でも、跡地を利用して外国人達と交流できる場があれば良いと思う。                                                                                                                                                             |
| 親     | 川 | 新都心等私達が生まれる前に基地が返還され、その跡地が都心化したという事実を知らない人がいた。そのため、今住んでいる人や未来の人が住みやすいまちを作ることを考える事も重要であるが、基地があったという事実がなくなるという事の方が怖いと思っている。戦後 70 年で戦争体験者が減っていく中、今度は基地があったという事実を伝える人が減っていく。自分の子孫に、基地があったという事実が分かるものを残していく必要があると思う。 |

|       |   |                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|-------|---|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 翁     | 長 | ひめゆりの塔のような資料館がないと、同じ過ちを犯してしまう可能性がある<br>ので、そのようなものを残すべきだと思う。                                                                                                                                                                                                                   |
| 呉     | 屋 | 私は残したくない。あったことは事実なので、それをいかに平和的に、世界中<br>に発信していけるかという事を考えた方がいいと思う。（モニュメントのよう<br>な物を残すのでは無く行動で示す。）                                                                                                                                                                               |
| 佐藤（恵） |   | 他の返還された新都心などを見ると、特色や沖縄らしさが無いため、アメリカ<br>という異文化があったという特色を活かしてほしいと思う。                                                                                                                                                                                                            |
| 牛     | 木 | 新都心は商業地になってしまったというイメージがある。言い換えれば消費を<br>するまち。そのような消費のみのまちでは無く、何か沖縄らしさを取り入れた<br>ら良いと思う。（子供がお年寄りの面倒を看たり、お年寄りと一緒に何かを出<br>来るまち＝沖縄らしいまち）                                                                                                                                            |
| 親     | 川 | 今の話を聞いて思った事として、普天間基地の跡地について高校の中では自然<br>や文化等様々な要素を含んだ話であったが、沖縄全体で見たときにも基地の跡<br>地が出て来るような所が多くあると思っており、北部や南部を含めて、普天間・<br>宜野湾だからこそできることがあると思う。その辺りの話をお聞かせ願いたい<br>と思う。                                                                                                             |
| 呉     | 屋 | 沖縄らしさと言っていたが、その中に宜野湾らしさを出した方が良いと思う。<br>要するに、宜野湾には様々な自治体があり、その自治体の中にも様々な無形文<br>化財等があるので、その文化財を本島や世界に発表することも必要であると思<br>う。（＝宜野湾らしさが発展していく）                                                                                                                                       |
| 親     | 川 | 呉屋さんが思っている宜野湾らしさとは何か。                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 呉     | 屋 | 発信できる舞台が出来ればと思っている。例えば野嵩・普天間には棒術があり、<br>大謝名は獅子舞、大山・伊佐・真志喜辺りは綱引きなど、とにかく昔との関係<br>性がある。それを大事にしながら、未来を作っていく。昔は対戦しながら未来<br>を作っていたのだが、その辺の空間形成等が宜野湾らしさを出せると思う。                                                                                                                      |
| 當     | 銘 | 佐藤さんが NBM の定例会で、よく宜野湾市の資源を活かしてという話を語ら<br>れているが、宜野湾らしさというのをどうお考えか。                                                                                                                                                                                                             |
| 佐藤（努） |   | 今、地図製作の仕事をしている中で、地元の嘉数の方々に色々な話を聞く事<br>があるが、私達の一世代上の方々であるが、皆生き生きとしている。昔は闘牛場<br>であった、ここは昔馬場であった等、そういう話は私自身にとっても非常に興<br>味があるが、こういう話はこの人達の世代からどんどん聞いていかないと忘れ<br>去られるのではないかと思う。私がこの話を聞いてハッとしたのが、集落の中<br>にしっかりと馬場があって、闘牛場があって…という話を聞くだけで、当時の<br>生活を思い描くことが出来る。そのため、まちづくりとは歴史を引きずるので |

|   |   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|---|---|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|   |   | <p>はなく、受け継いでいくという事が重要なのかなと思っていたが、先程の話にあった基地全部がなくなってしまう事が怖いという事を私は初めて聞いて驚いた。平和の視点で考えると、基地がない方が、という方が常識だと思っていたが、逆にそういうものを受け継いでいくためには、基地があってその後のまちづくりを我々が楽しみながら頑張っという風にしたいということをバトンタッチしていければいいと思う。仰々しく受け継ぐのではなく、上の世代から自然に受け継いでいくという事が大事であると思う。</p> <p>この跡地に実際に生活するのは私達の次の次の世代であると思うが、その人達はあまり声を発せないため、私達の世代が市民としてこういうまちはどうか、という案を次の世代にバトンタッチしていく事が役目かなと思っている。</p> <p>もう一つ言えば、皆で考えるということが重要であると思うが、考える事を表現する場が上手く出来ていないのではと思う。例えば、高校生には高校生の、我々には我々のフィールドがある。そのフィールドで自由にまちづくりの方法・手法を表現する場が無いのかなと思っており、その場が出来るとまちづくりに関する意見が活発化していくと思うが、今はどちらかと言えばアンケートやヒアリング等で良い悪いの世界であるため、それを発言できる場が必要であると思う。</p> |
| 當 | 銘 | 今の話を聞いてどう思われるか。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 翁 | 長 | その通りであると思う。内地の高校生との交流会はあるが、沖縄県内の高校生ではそういう話し合いをしたことが無いため、そういった場や様々な世代の方々とこういった話が出来る場を作ればいいと思う。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 親 | 川 | 跡地利用やまちづくりで、年齢関係なくアイデアを一緒にすれば面白いと思う。また、世代間の時代背景が異なる事から意見も異なると思うので、少し思ったのが、自分達が話し合った事を実現するのはまだ先のため、その時に10代20代の人達が、今のまちが出来るまでに前の世代の人達が考えたという事を知らないかもしれない。受け継ぐという事をどのような形で行っていくのかが大事であると思う。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 當 | 銘 | ちなみに、若い世代が意見を発する場であったり、受け継ぐ事が必要という事はあると思うが、実際に若い世代が出来ののかどうかを聞きたいと思うがどうか。受け継ぐ気があるのかどうか。周りをみてどのように考えているか。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 翁 | 長 | 祖父、祖母など沖縄の事を知っている人が身近にいる人は繋げていきたいと考えていると思うが、身近にいない人はそこまで深く考えていないと思う。普天間高校生は約1200名いるが、考えている人は一部であると思う。その人達を巻き込んで考える事が出来る場を作るためには、どうすべきかという事を考えたいと思っている。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |

|       |   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|-------|---|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 親     | 川 | 実感がないと思う。話してはいるが、自分の案でそういった事ができたという実感がなく、もし自分が言った事が、まちのこの部分に反映されているという実感が必要であると思う。今話をした事が実際に行われる過程がこの先にあったとして、工事中の時には全然気にしていないが、完成して「あっ、出来てる！」という時は、受け継ぐ意思があるのかどうか気になる。                                                                                                                            |
| 松     | 川 | 普天間飛行場は世界一危険な場所と言われている所であるが、そういった問題解決をしなければならない。また、それだけ広大な土地が沖縄の中心にある、そういう土地が返ってきた時、どういうまちづくりが出来るかということについては、期待している。                                                                                                                                                                               |
| 當     | 銘 | 上の世代の方々は宜野湾市の歴史・文化を受け継いでいて、最終的にはまちづくりに反映されれば良いのではという話をしている、若い世代はそれを受け継ぐことが出来るかどうかという話をしている、若者が受け継ぐにはどうすれば良いかという事を聞ければと思う。                                                                                                                                                                          |
| 佐藤（努） |   | 高校生には高校生、大学生には大学生の考えるきっかけがあれば良いと思う。私達も365日、常に考えているのではなくせいぜい月1回位であるが、何かあると「これはもしかすると普天間基地の跡地に当てはまるよね」、「こういうまちもあるならば参考にしてみてもどうか」等の発言が出来ると思うので、そのきっかけが欲しいと思う。ここからここまでは私達がやったので、ここからは次の世代がどうぞというのではなく、10代20代に輪が広がっていく事が良いのではとっていて、今の若い世代の人達が考える場が少ないなとっていて、この場も考えるきっかけになると思う。楽しみながら考えていこう、という場が欲しいと思う。 |
| 牛     | 木 | 学校等でこういった催しがもっとあれば考えるきっかけが増えると思うし、知らない人に発信する事できっかけが生まれると思うので、話し合う場の仕組み作りが必要であると思う。                                                                                                                                                                                                                 |
| 佐藤（恵） |   | 様々な世代の方々の意見を聞くことが出来る場があまりないので、定期的に開催してもらいたいと思っているし、周りの人にも参加してみたいと思っているのでどんどん開催して欲しい。                                                                                                                                                                                                               |
| 親     | 川 | 様々な世代で話すという場は少ないと思う。祖父母と話す時と、親と話す時は別々であるが、多様な世代で話すことが出来る場で話す事があると色々な意見がぶつかると思うが、その後に、こうしたいねという場作りが必要であると思う。                                                                                                                                                                                        |
| 呉     | 屋 | 先程、発表の場を作りたいという事であったが、文化祭等祭りのような場所で発表する場を作れば良いと思う。                                                                                                                                                                                                                                                 |

|       |   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|-------|---|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 當     | 銘 | 私達 20 代は若者と言われる世代で、どうすれば良いのかを考える世代であり、50・60 代の方は若い世代にどうして欲しいという世代だと思うが、その狭間の世代の方は周りの人達を見てどう思うのか、お聞かせ願いたい。                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 佐藤（恵） |   | 個人的な意見であるが、私の世代は少し諦めた感じの人が多く、それよりも少し下の 20 代の人達は割と厳しい時に生まれているからなのか、何とかしなければと思っている人が多いという印象がある。30 代は中途半端でぬるい感じだと思っているので、こういう風に様々な世代の方の意見が聞け、若い人から底上げしてもらえようなまちづくりの意見交換ができるという事が刺激になっていいのかなと思っている。                                                                                                                                                                                           |
| 當     | 銘 | そういう意味で考えたいと思っている方が結構多いという事です。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 佐藤（恵） |   | 気軽に話せて刺激をもらえる会があればいいのかなと思う。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 當     | 銘 | それを押し上げていく若者をこれからアプローチしていこうと思う。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 親     | 川 | そういう、今バリバリ頑張られている大人の姿をもっと見たい。それに巻き込まれたいし、そうすると自分達も頑張りたいと思うが、いかがか。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 佐藤（努） |   | 少し話は変わるが、最初に見たビデオは非常に素晴らしいと思うが、私達の世代になるとすごく疑ってかかる。「本当にこうなの？」というように。本来のまちづくりというのは、個々の夢を出し合って本当にそこに生活する人たちが作っていくのではないのかと思う。もちろんああいう絵姿を見るのは、将来こうなればいいなと思うのだが、本来は子育ての視点から見たらまちはこうあるべきだ、というような意見がどんどん出ていって、それが具体的になって言葉になり絵になり、と進んでいくと思う。その参加の方法が今のところないような気がする。それぞれのフィールドで意見が言えるような、そういうものがまちづくりに出せるような場を作るべきであると思う。そうでなければ「いいな、きれいだな」というような、他人事の様子に済んでしまう。この絵で歴史文化などが活かしきれているのかを考える場が欲しいと思う。 |
| 當     | 銘 | 先程の、他人事という表現がすごく好きである。今日私が必ず言いたいと思っていた事が、「誰のための跡地利用なのか」という事を皆様に聞いていきたい。例えば 50 代・60 代の方々は若者に対して受け継いでほしいと思っており、若い世代は上の人から話されて自分達はどうすれば良いのかと迷っている。その狭間の世代の方々は、下から元気を貰い、上から知恵を貰いという事だと思っているが、実際誰のために考えてそういう事をやれば良いのかと思っている。それについてはどう思われるか。具体的な世代に対して聞きたい、という訳ではなく、どの世代でも構わない。                                                                                                                 |
| 呉     | 屋 | 先程の「疑う」という事で、確かにビデオを見ると素晴らしいものがたくさんある。しかし実際現地に行ってみると、例えばお墓の整備場の構想も入ってい                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |

|   |   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|---|---|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|   |   | ないし、地域には養護学校等自立支援センターにいる人達の環境と私達に関わっていけるかという構想も出ていない。この辺も考えながら構想していくと、もっといいまちになると思う。見えない部分をわざと表に出すという事をやってみても良いのかなと思う。                                                                                                                                                                              |
| 當 | 銘 | 今の話は、誰のためを思っているのか。                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 呉 | 屋 | 生きている人のためである。例えば、安心して皆が生活している中に少年院や鑑別所があったり、その辺りもこの計画の中に入っているのか？それも踏まえてのまちづくりであるため、将来平等にならないといけない。                                                                                                                                                                                                  |
| 親 | 川 | 私は誰のためと言え、今の自分が考えるまちづくりなので、今の（20 歳の）私が住みやすいと思うまちを言っている。こういうのが良いなど。年を重ねた時に、私がそこを使うという視点は無い。今の呉屋さんの話を聞いた時、確かに私も年を取るという視点が入ってきたので、今の私のためだけの視点になるとまちが完成した時に、もしかすると使いづらいかもしれないというのがあったので、そこは考えを変えないといけないと思った。                                                                                            |
| 當 | 銘 | 先程の、基地のモニュメントや一部を残して伝えていきたいという点について、結局誰のために考えた結果なのかという事も深く聞きたいが、それに関してはどうか。                                                                                                                                                                                                                         |
| 親 | 川 | それについては、現在 0 歳の子やまだ産まれていない子が、基地があったという事実がもしかしたらなくなっているかもしれないので、歴史として集落のど真ん中に基地があったという事や、その事によって沖縄県民が葛藤していたという事実、また、もしかしたら基地自体が無くなった事によって、きっかけもなくなってしまうのは嫌だなと思ったので、一つ的手段として一部フェンスを残しておくなど目に見える形で残っていた方が、こういう事実があった上で今の平和が成り立っているという状態を示すためのものになるのではないかと、という思いもある。基地があるという事を知らない世代が産まれてくる時のことを考えて思った。 |
| 當 | 銘 | 難しいと思うが、これから跡地利用のことを考えていく上で誰の事を考えればよいのか、という点について考えのある方はいらっしゃるか。                                                                                                                                                                                                                                     |
| 牛 | 木 | 私が生きている間に新都心のように普天間が完成していればいいと思うが、若干難しいのかなと思う。そうするとやはり考える事は、次の未来を作る人たちを基準とし、子供達がどのように育っていけるのかというまちなのかなと思う。まちはその人たちの暮らしというものがあるため、皆に良いようにする事は中々難しいが、皆が住みやすいまちを作らないとダメなので、そうするとやはり、大人は自分で住む場所にしても選択ができるが、子供は自分の選択ではできない。そういう意味では、子供達が住みやすいまちというか。例えば、福                                                |

|       |  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|-------|--|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|       |  | <p>島県の子供達を沖縄に連れてきて過ごさせるという事は私はやっているが、そういう中に住み続けなければならないという子供達が実際にいるわけで、今の普天間基地は正にそうで、一番危険な状況にいるという意味ではそういう危険なものを排除し、そして安心できる、そういうまちという意味では、子供達がどう過ごせるのか、次の未来を託す子供達向けの、ある意味期待を込めてのまちづくりができればと思う。</p>                                                                                                                                                                                                                                |
| 佐藤（努） |  | <p>以前学校関係者の人に聞いてみた所、中学生はストレスが溜まっており、そのはけ口がメインプレイスの映画館前広場に集まって友達と話をする事が唯一のはけ口だと言っていた。私達の中学校時代は、まちの中で冒険ができた気がして、そういうまちづくりを提案する市民がいてもいいのかなと思う。誰のためという事については、もちろん自分のため、そして次の世代のためであるが、誰がその事を考えるか、発言できるのかという、もう一方の視点があると思う。「考えているがそこで終わってしまう」のか、それとも「だったら、こうできるよ」と提案ができるのは、私達の世代ではないかと思う。そのため、様々な世代の人の話を聞く事は非常に重要であると思う。</p>                                                                                                            |
| 松川    |  | <p>この問題について、若い方々が入ってきたということ自体私は非常に嬉しい。ただ、この問題はテーマがあまりにも大きすぎて、話し合えば話し合う程、勉強しようと思えば思う程深みにはまっていく議題でもある。しかし、こうして様々な世代の人達が一つのテーブルで色々な会話をしている、そういうものの一つ一つの積み重ね、そしてその継続という事で期待していきたいと思う。例えばまちづくりを考えた時、戦後住宅やビルをどんどん作っていったと思うが、建設後 30 年 40 年経つとその建物を建設した世代は定年退職し、年金生活をしている。そういう所に子供達が来てそこに住もうと思うかといえば、中々そうはいかないと思う。家を作った両親はもう 60、70 代になっているため、それをまた建て替えるということを考えるわけでもない、だからそれはその時代で終わってしまっている。そのため、そういうまちづくり、環境づくりを今から考えていかなければならないと思う。</p> |
| 當銘    |  | <p>最後に聞きたい事があるが、意義という単語を広辞苑で調べると、それに対してふさわしい価値という意味になっている。そのため本日のテーマは、跡地にふさわしい価値とは何か、という問いに変わっていくと思う。本日話をしてきた中で、誰のためなのかという事や宜野湾らしさ、歴史を受け継ぐ、子供達の未来を作るという話をしてきたが、もう一度最初に戻って、跡地にふさわしい価値とは何かという事を少しだけ議論したいと思う。</p>                                                                                                                                                                                                                     |
| 呉屋    |  | <p>後悔しないまちだと思っている。要するに色々な場所にマンション等があったりするが、殆どが老朽化し、かつ高齢化社会となっている、そういうまち（後悔しないまち）について議論できれば良いと思う。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 翁長    |  | <p>沖縄の将来がそこに感じられるまちであって欲しいと思う。例えば県外の大企</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |

|       |   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|-------|---|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|       |   | 業等に影響されていたら沖縄らしさが無くなっていくと思うので、沖縄県民が考えるまちづくりができればいいなと思う。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 親     | 川 | 基地というものの自体に対し、ずっと沖縄県民が無くして欲しいという思いで、危険という事も踏まえて無くなるという事は、沖縄県民が動かしたという事を誇りに持って良いと考えている。先程お話にあった「後悔しない」、しかも自分達が意志を持って無くしたという事を、意識を持ってもっと皆で議論してもよいのではと思っている。それこそ後悔しないようにするために、もし誰かが声を上げなければ現状のまま残っていたかもしれないという事を、もう少し私達も声を出して、後悔しないまちを作ろうということを価値として見いだせればと思っている。せっかく土地ができるという、普通ならばあり得ないかもしれない事について、全世代が一緒に作ろうという事は、いい機会だと思っている。それを絶好のチャンスとして「皆でやろう」という事を、上からも下からも両方任せるのではなく、一緒にやろうよという事をもっと出していきたいと思っている。皆で勝ち取った場所を作っていくという事が大事であると思う。 |
| 牛     | 木 | バトンタッチや引き継ぐというキーワードは大事だと思っており、プラスもマイナスも含めて引き継ぐ（引き継いでいける）まちにしないと単発で終わってしまう。100年後の人が生き生きと暮らしていけるまちにしないといけないと思う。各世代が一定のエリアにいて、皆で助け合って生活しているという事は、私達から見ると沖縄らしい素敵な事であり、残していかないといけない点であると思うので、3世代が居るというまちにしていければ良いと思う。                                                                                                                                                                                                                      |
| 佐藤（努） |   | よく言われる事であるが、沖縄自体が戦略的な価値を持っていると言われる。そういう意味の戦略的ではなくまちづくりの意味でも、沖縄・日本のためにも仰々しい戦略ではなく、まちづくりを発信できるようなものを育てていく跡地利用ができれば良いと思う。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 佐藤（恵） |   | 今の日本は社会保障もしっかりしており高齢者の方を支えるということが出来る仕組みがあると思うが、私達の世代になると殆どそういった事が厳しいと思う。世界の都市を訪れると、公共交通機関がしっかりしており、元気な高齢者の方が多いイメージがある。自然もあり、まちもあり、人も住んでいて、という事が徒歩であったり公共交通機関で移動できるようなまちを見ると、こういう風になったらいいな、と。歩く事で健康も作れるし、今から私達がせっかく作っていくまちで、これから高齢者になっていく私達が子供に迷惑をかけないようにするという事ならば、健康づくりを意識した沖縄の人の意識が変わるようなまちになればいいと思う。電車やバスに乗れるようにする事で気軽に観光客も来る事ができるし、住んでいる人も楽しめるのかなと思った。                                                                             |
| 當     | 銘 | これで本日のディスカッションは終了であるが、今後このように世代が異なる人達と話す事が有意義であると私も感じた。第2回、第3回と継続していくため、その際はご協力頂ければと思う。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |

### (3) 「沖縄学生会議 2015」の開催

#### 1) 取り組みのポイント

普天間飛行場の跡地利用に関しては、「跡地利用は地権者の問題」という認識が根強く依然として市民の関心は低い状況がある。そこで、跡地利用に対する市民の関心の向上を図るきっかけづくりとして、「普天間飛行場跡地の持つ意義・意味とは？」をテーマに「沖縄学生会議 2015」と題した意見交換会を開催する。

「沖縄学生会議 2015」では宜野湾市の将来のまちづくりを担う高校生、大学生を登壇者として招き、各学生の専門分野にもとづく意見交換を行う。「NB ミーティング全世代ディスカッション 2015」と同様に対外的な取り組みによって市民の跡地利用に対する関心の醸成を図る。また、併せて NB ミーティングの活動周知を行うことで会の認知度向上、新規メンバー獲得につなげる。

#### 2) 開催概要

○開催日時：平成 27 年 2 月 22 日（日） 13:00～16:00

○開催場所：沖縄コンベンションセンター会議棟 B 棟 B2

○内 容：①普天間飛行場跡地利用計画に係る取り組み状況の説明

②登壇学生による意見発表（10 名）

③「普天間基地の跡地が持つ意義/意味とは？」をテーマにしたディスカッション

○参 加 者：32 名（高校生、大学生の登壇者 10 名、オブザーバー 22 名）



写真：NB ミーティング会長によるあいさつ



写真：宜野湾市による跡地利用に関する説明



写真：ディスカッションのようす



写真：オブザーバーとの意見交換のようす

### 3) 意見及び質疑応答・意見交換内容

#### ①学意見の内容

|   |   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|---|---|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 瀬 | 長 | <p>キング牧師は言った。「I have a dream.」私は夢があります。私にも。それは様々な国や地域からやってこられた人たちが交流して、多種多様な人材が生まれるチャンスに溢れた普天間の未来像。そして緑豊かで人々に安らぎを与え、生きる活力に溢れた普天間の未来像。この、二つの夢が私にはある。普天間というのは、沖縄県の中南部の中間に位置していて、また、沖縄は日本、東アジア、東南アジアの中心に位置している。沖縄というのは、かつて琉球王国時代から現在に至るまで地の利、地政学的上有利なところにある、と言われてきた。米軍基地が存在する理由もそういった理由もあると思う。この普天間基地を活用する、いかに活用するかによって、沖縄ひいては日本に多大なる影響、活力を与えることができる。これが普天間基地の開発する、未来を考えていく意義だと思う。そして普天間基地の跡地を考える上で、私は二つの視点が大事。それが産業からのアプローチと教育からのアプローチ。つまり、産業からのアプローチというのは観光立県としての沖縄、アミューズメントパークやビジネスが円滑に行われるような経済特区をつくるなど、そういったものを普天間基地の跡地利用に活用していくというアプローチの仕方と、教育アプローチ。私は教育のアプローチというものを重視していきたい。お金を稼ぐのは良いことだが、その後にお金を増やしていく、これには人の力が大切である。どうお金を活かしていくか、そして、沖縄の将来、未来をしっかりと考えそれを実行していく人材、それをつくっていくのが大事。私は今日、この教育というアプローチから、考えていきたいと思う。</p> |
| 荒 | 井 | <p>今回のテーマが「普天間飛行場跡地が持つ意義とは」であるが、すごく難しい。すごく難しいが、跡地利用をどうするかを考えれば分かってくる、と思い跡地利用を考えていく上で自分が持った視点を発表する。持った視点は3つある。一つ目が普天間飛行場がある立地。2つ目が今あるものへの影響、返還された後の影響。3つ目が、宜野湾らしさ。1つ目の立地に関して、普天間跡地は、発展しているところをつなげることができる。そうすると、発信もできる。2つ目の今あるものへの影響に関して、飛行場の下には、ターム畑がある。私は農学部なのでとても気になっていて、今普天間飛行場の場所に雨が降ると、その水が流れてターム畑に流れる仕組みでタームが栽培できる。タームとは沖縄の伝統の野菜で貴重であり、子どもへの教育の場でもある。今、親が持っているターム畑に小学生が来て、食育イベントなどが開催されていて、普天間跡地にたくさんビル等が建ってしまうと水がしみ込まずターム生産ができなくなってしまう。そうすると子どもたちの遊ぶ場や、教育する場が無くなってしまう。3つ目の宜野湾らしさに関して、タームにつながるが、宜野湾からタームが無くなると何が残るのか。農業系なので、言い方が極端だが、特産物などをつくっていかないといけない、と思う。</p>                                                                                                                                                   |
| 屋 | 良 | <p>私は地域経済を主に勉強する学科にいる。また、長年宜野湾で育ってきた。宜</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |

野湾らしさ、宜野湾の特産と言われて、なんだろう、と考え、「ない」と思ってしまった。でも、そこも宜野湾の良いところと思う。普天間の跡地利用については実は小学校の頃から考えてきた。宜野湾の小学校では、3、4年生ぐらいに社会科の授業の中で必ず宜野湾市についてふれる。そうした中でかなり考えていて、小さいときは大きな公園や遊園地が欲しいと考え、ディズニーランドが出来るかもしれないというニュースが流れたりしたのを覚えている。しかし、今、大学に通い地域経済を勉強していく中で、宜野湾市で経済を活性化させるにはどうしたらいいだろう、と考えたら一番良い方法、一番簡単な方法であるが宜野湾市に来てもらう、宜野湾市にたくさんの人が住んでもらう、これが一番良いな、と考える。そして、どうやったら来てもらえるか、どうやったら住んでももらえるかを考えた。私は宜野湾の改善点として、交通渋滞が一番であると考えている。夕方やイベントなど、とても混む。また事故も多い地域である。普天間跡地に大きな道路を設置することで大きく改善される。また、交通渋滞が改善されると、次に観光客の呼び込み、満足度に繋がる。観光客の方が不満に思っている第1位は「交通渋滞」で、アンケートでは36%もの観光客が交通渋滞に不満を持っている。どうすればこの不満を解消させることが出来るのか、を考えると、那覇から空港から通る宜野湾にもしも大きな道があったら、もしもここにとても景観の良いドライブスポットがあったら、もしもここ途中で休憩のできる大きな休憩スポットがあったら・・・そういったことを考えたときに宜野湾市は色んな人に来てもらえる場所になると思う。そこで宜野湾市に感動してもらえればさらに住んでももらえる。宜野湾市は近くに大学もある。学校もたくさんある。高台である。いろんな面から住みやすい。まずは交通渋滞という身近な問題から解決できたらとても発展すると考えている。

日 高 まず、私は沖縄出身ではなく、ないちゃーである。私が沖縄県の普天間飛行場の跡地利用計画について考えるきっかけを与えられたときに、何が話せるんだろう、何がディスカッションできるんだろう、を考えた。沖縄に来てから基地問題について考え始めた。一番は基地問題自体が持っているイメージがネガティブであると思い、反対運動もそうであるし、琉球大学の学生会の活動にもあまり良いイメージを持っていなかった。多分、私たちの世代の正直な感想の一部と思うが、そんな中で初めて跡地利用プロジェクトを知り、跡地利用プロジェクトというのは基地問題の中に入る一つの分野だと思うが、跡地利用プロジェクトがもつイメージはとてもポジティブである、と感じた。そういったポジティブな跡地利用計画について、どう自分の意見を言えるか、と考えたところ、一番は若者が政治参加をするひとつのきっかけになるのではないかと考えた。学生ができることを考えると、すごく少ないし、有識者の方の話を聞けば基本的なことは学生に聞くよりもっとスピーディーに解決できると思うので、学生が話し合うメリットというのは「学生である」ということの他に何も無いと思う。学生が学生であるからこそ話せることは、自分が等身大でディスカッションをする、というのが一番だと思うが、選挙に行って政治行動をする、という

翁

長

ことだけではなくて、この跡地利用計画について話す、考える、知る、ということがまず大きな政治参加だと思った。今回のテーマの問いについて答える形でまとめると、普天間飛行場の跡地が持つ意義とは、私たちが普天間飛行場の跡地について考えることである。自分たちの選択、壮大な話になるが、今までの歴史は一人の人が選択した歴史が重なっていると思っていて、今この会議に参加することを選んだ、参加者の皆さんがここにいることを選んだ、その選択自体が新しい歴史をつくると思い、それがこれからの歴史をつくる第1歩なんだな、と思いながら今日は話していく。

嘉

陽

私は観光という分野から話を進めていきたい。まず、私が考える、普天間飛行場の跡地が持つ意義とは、沖縄の自立経済を実現するという大きな意義がある。2014年に入域観光客数が700万人を超えた。沖縄県の沖縄21世紀ビジョンにおいて、2020年までに入域観光客数1,000万人を超す、ということで残り6年で2014年において700万人を達成しているので、2020年を待たずして1,000万人は達成するのではないかと。しかし、観光産業においては入域観光客数だけではなく、観光消費額というものが重要になってくる。2013年は入域観光客数が650万人だったが、観光消費額からみると、4,950億弱ということで、沖縄21世紀ビジョンの、2020年の1兆円、というものにはまだまだほど遠い。消費額という観点から見るとまだまだ沖縄観光は弱い。観光消費額を増やす、ということが非常に重要である。話は変わり、県内総生産、いわゆるGDPについて、2011年において沖縄県のGDPが3兆6,000億円ほど。

沖縄の自立経済が成り立つために必要な GDP が 6 兆円と言われている。まだまだ低い。この経済構造というのが、6,000 万人以上の所得者、全国ランキング 10 位でありながら、所得が全国最下位という歪な構造になっている。このトリプルダウン、格差を是正して、観光という力を持って対外債務を減らして、自立経済の道を歩む。ということが非常に重要になってくると思う。そして、普天間基地について、宜野湾はねたてのまちと言われている。ねたてというのは、宜野湾の古謡である「おもろそうし」から、「ねっこ」という意味からきているのだが、根っこがしっかりすると木が大きく育つように、根っこがしっかりすると、経済も大きく発展する。この 481 ha の土地を使って、つながりを意識して沖縄の南北をつなぐ、沖縄と本土をつなぐ、沖縄と世界をつなぐ、というようなダイナミックなアクションがこの地には必要であると考えます。沖縄観光は開かれて 41 年たつが、白い砂浜、青い空、きれいな海というようなイメージでやってきているが、40 年たつと沖縄も健康診断が必要になってくる。生活習慣を変えなければいけない。今まではリゾート地としてやってきたが、沖縄に仕事で来る、というビジネスリゾートのような新しい付加価値を付けていかなければならない、と思う。都市機能の拡充が普天間跡地の利用では重要になってくる。観光において必要なことは、住んでよし、訪れてよし、非日常の日常空間の提供であるので、都市の拡充や鉄軌道などのハード面はもちろんであるが、ユニバーサルデザインや沖縄独自のおもてなしの精神など、ソフト面の強化も重要になってくる。こういった付加価値のようなものが、沖縄の消費力を上げる大きな力になってくる。今日は深い話がしたい。

沢

岬

将来社会科の教員を目指していて、今日は教育という視点から意見を述べたいと思う。基地の全面返還合意から 19 年がたち、そろそろ基地の返還とその跡地利用に向けた様々な取り組みや計画が動き出している。その中で私は普天間基地の跡地利用について、教育の観点から 2 つ提言をしたいと思う。1 つは普天間基地における教育環境の整備についてである。普天間基地が返還されると広大な土地に人々が生活していく。その中において学校が街を構成していく上で必要不可欠な要素である。跡地にある程度の人口が集まり、地域の人口バランスが安定するまではやはり時間がかかるが一定の範囲内に学校が必要である。学校は地元や郷土に関わりをもって、子どもの身近なコミュニティの場になる。学校の主役は子どもたちであり、基地跡地が学習環境や通学環境を悪くすることなく、基地返還によって広がる土地とともに、未来の子どもたちの更なる学びと交流範囲の広がりが可能である跡地利用が必要である、と考えている。また、宜野湾市周辺には琉球大学と沖縄国際大学の 2 つの大学が立地していて、数多くの学生が集う沖縄県で最も学問が盛んな地域であると言え、普天間跡地に県内外の研究機関や県外からの大学、企業、そういった研究機関をさらに誘致することで、例えば筑波研究都市のようなリサーチパーク的な研究というテーマを持った一つの街ができると考える。これらの大学機関を中心とした学問と学びの街を形成していける可能性を秘めた街である。このように子ど

もたちの地域のコミュニティの場でもありながら、沖縄県の多くの学生のコミュニティにもなり得る、また大学機関と学校が連携をすることで、子どもたちが夢を見つけ何らかの学問に興味を持つ機会を提供できるかもしれない。大学のみならず、近年重要視されている、生涯学習の機会をつくることも必要で、行政と大学機関が連携し、地域の住民が好きなことを学べる環境を整備していくこともやはり一つの街を活性化していく策でないか。基地跡地の学校と大学、行政との間に着目して小学生から大学生、社会人や主婦などの幅広い世代が集い、学ぶ街になる可能性を宜野湾は秘めている。2 つ目に、普天間跡地を教育でどのように活かして活用していくかについてである。ここからは私の主観でもあるが、社会科の観点から見ていく。普天間基地には社会科的要素が多く詰まっている。自然や景観といった地理的な面。戦後の米軍による基地の接収や戦闘機の事故の歴史的な面や、防衛に関する日米安保などの政治的な面など普天間基地に関連する事例は多々あり、基地返還にはこのような背景があると、伝えていくこと、記憶の伝承に、普天間基地の教育的な意義があると考えている。そのためにも、普天間基地を教材として活用していくことが重要である。現地でフィールドワークをするということはシンプルで、最も効果的であると考えている。現地を足で踏みしめてこの広大な面積がかつてはいったい何だったのか、どうして今自由に歩いて立っていられるのかという視点から伝えていくことで、基地を様々な面から考察することができる。ただ基地を知るだけでなく、平和教育や人権教育にも関連させていくことで深みが増し、1 人間として身近な問題として考えることが大切であると考えている。このように基地を教材として最大限活用して、教科として実践できるのは取り分け社会科であって、教師の中でも特に社会科教員には、基地返還後の世代にも普天間基地について考えさせることのできる、スキルと知識が求められている。普天間基地が返還されることにより、基地があった面影はなくなっていく。しかし、ここに基地があったという歴史は変わることはなく、沖縄県には嘉手納基地などまだまだ多くの基地が残っている。普天間基地が返還されるというポジティブな面に関心を持って明るい未来を描くこともテーマのように重要ではあるが、では、他の基地はどうなっているのか、何か悪影響はないのか、などネガティブな面に興味を持つことも重要である。このアプローチをするために普天間跡地は大変重要な意味を持っていて、身近な問題としても国の防衛や外国にも関わる大きな問題としても考えることのできるいわば最適な教材となる。この普天間基地を含む基地に関する問題を学校教育で活かすうえでそもそも基地問題は、もともと政治色が強い上に、学校では取り上げられにくいという側面があった。だからこそ逆に、普天間基地を切り口にして沖縄県民として、1 人間として未来や自己の権利について身近なものとして真剣に考えて、一人一人が主権者であることを考えさせる自分の理想形の教育の形である、主権者教育へと活かすことができると考えている。普天間基地の存在を後世に伝え、主権者としての意識が広く浸透することで基地を含む様々な時事問題にも、権利の主体者として関与して肯定や否定的な思考で考える、という能力を養うこともでき、まだ

国

仲

まだ残る基地の問題や沖縄県が抱える多くの問題に関心を持っていける人間を育てることができると考えている。最後に普天間跡地利用と教育は具体的な数字や事例で表すことが難しく、ほとんどが理想論にすぎないかもしれない。しかし、新たな学問と学びの街への期待と実際の教育現場での教材として活用できる可能性を大いに秘めている。我々の世代や、特に私を含め、教師を志す者は普天間基地の現状と課題、返還から跡地利用の過程を見つめて、感じて学んだことをどのように活かしていくかを、社会の形成者になる責任をもって考えていく必要がある、と思う。

1 年半前から普天間跡地利用に関わってきた。数多くの共働や話し合いをしてきた。跡地利用について、生々しく想像してほしい。跡地がどうなるか、の前に返還される瞬間などを想像してほしい。米軍などどう返還されるのか、生々しく想像したい。例えば、跡地利用計画を進めていく上で、どう進行していくのか、徐々に開発されていくのか、全部完成して一気に現れるのか、どういう形で私達はそれを見ていくのか、皆で生々しく想像したい。フェードインなのか、いきなり土地を明け渡されるのか。跡地がどうあるかを考えるのもそうであるが、おそらく私達の世代は課程にほぼいると思う。多分後何十年かかかる。PV にあった風景が広がるのは。この過程において私達はどうかかわるのか。そういったところをまず、一緒に考えたい。セレモニーみたいなことをやるのか、等そういう事をもっともっと具体的にイメージしていきたいのだが、それがもっとわくわくした形であれば良いな、と思っている。文化祭理論である。みんなでゴールを目指し、達成するために時には衝突もしながら進めていき、終わった後につくっていく過程やプロセスも楽しかった、と思える。この感じを作りたいし、作れると思う。それで言うと、今日のテーマに関して明確にあって、ネガティブな「問題」として捉えられてきた基地が、初めてポジティブな話題になる。ここが大きな意義である。そして、この話題は小学生や高校生、大学生、社会人、高齢者、すべての人が同じ目線で話すことができる。こんな街にしたいよね、先ほど PV にもあったが、「小学生も考えています」「中学生も考えています」というのがあったと思うが、これはすごく大事なことだと思う。それが、知識がないから、とかではなく、小学生でも無邪気に「ディズニーランドつくりたい！」これも一つの大事な意見。これを全世代、色んな立場、外国人であっても同じ目線でこの跡地をどうやったら意義深く使えるのか、というのを考えるのが、この普天間跡地利用の意義である。しかも大規模で、東京の渋谷のど真ん中に広大な土地って生まれにくい。しかし返還されると、沖縄にはそれが有り得る。広大な土地がいきなり現れる。無かったものがそこに現れる、そんな感覚をもっとワクワクしながら考えたい。動画の中にもあったが「みんなで考えましょう」というのがあったが、私は少し違うとっていて、必要なのは「I」(アイ)である。主語がIである必要があると思っている。私は、「俺がやる。」と思っている。どちらかというと、皆で考えようという暇が私にはなくて、「自分がやります。」だから、こういった会も私が作るし、県内

の特に同年代に向けてのインスパイアの場であったりとか、当社は修学旅行の受け入れも主な事業にしているので、当社の一番の強みは県外の中高生に対して、沖縄の課題や問題や魅力を一気に大規模で広げることができる。そのため今後やることは、Iと言ったので、やることは、県外の高校生向けに対して基地跡地利用の過程にしっかりと関わってもらう。それで、私が絶対やりたいのが、後ろで座っていらっしゃる宜野湾市のお二人と良くお話させて頂くのですが、「行政の立場ではこうです。」ではなく、「俺はこうしたいんだ」と言ってくれるくらいの形でしっかり関わってもらって、全員主語がIになって関わってもらう。あまりにもこうなったほうが良いんじゃないか、とかこうなったら良いよね、だけじゃ私達の世代になったら無責任だと思う。全体で考えることも大事だけど、個の力というもの大事に見ていかないと多分何も動かない。結局決まったものに指加えて、という状況になってしまうだけだと思う。個の力というのを重要視しながら、全体としてどうあるべきか、というのを考えていきたいと思う。

比 嘉 今日、都市と空間的な面から私の持つ米軍基地跡地への意義とその境界地域について話をしようと思う。まずこちらの数字を見てもらうと 480 万平方メートル、この数字は現在の普天間飛行場のおおよその面積です。分かりやすくするために別のもので置き換えてみると、パチカン市国 11 個、千原キャンパスで 3 個半、筑波大学が 1 個丸々入るくらい、サトウキビを敷き詰めると年間で 546 トン。黒砂糖にすると 76 トン生産できる。太陽パネルだと 34 万キロワット、だいたい 10 万世帯分で浦添市、宜野湾市、西原町を丸々カバーできる。非常にエコである。今回のテーマである「普天間飛行場の跡地が持つ意義」。私は伝えるべき沖縄の記憶であると捉えた。天災や人災では「記録や記憶が風化し忘れられた時に襲ってくる」とよく言われている。そう遠くない未来におそらく普天間飛行場は返還されるであろう。広大な土地で産学官連携による開発が進められ基地経済から脱却し、アジアからの玄関口として驚くほどの発展をとげるかもしれない。でも、その時私たちの子どもにここにかつて世界で最も危険な基地があった、それを誰が信じられるだろうか。この土地の返還のために苦しんだ長い年月、たくさんの人々がいたことを忘れられること、私はそれが一番怖いことだと思っている。その記憶を守るために目を向ける場所、それは私は基地と沖縄の境目、境界地域にあると考えている。そもそも今基地の近くの地域に対しての私たちのイメージは、騒音であったり、言い方が適切でないかもしれないが治安が悪かったり、頭上の飛行機の危険性であったり、あまり良いとは正直言えない。しかし、私はこの地域に次のような可能性があると考えている。この中で、教育と文化、経済について今を基準にして、未来に思いを馳せながら例をあげていく。まずは教育。今現在を起点としたとき、この空間が最初に持つのは資料の展示や歴史を学ぶダークツーリズム、周辺住民が集まり使用するコミュニティスペースとしての役割である。次に文化面、少し未来になると基地跡地の返還が始まる。開発により人、物資の動きが徐々に

激しくなり所々で様々な変化が生まれる。沖縄の文化体験が出来たり、県内外の芸術家による伝統工芸品や美術品を見たり触れたりする場所が増えてくる。そして経済、さらに時がたち、基地の面影も無くなったころアジアや多くの人たちが訪れるようになった沖縄。かつて周辺地域に住んでいた人達は、旅人たちが訪れるゲストハウスやシェアハウス、そういった人たちが行う小規模農業、お店にはエスニックな商品が集まり、オリエンタルでちょっとアングラな沖縄らしい空間が広がるのではないかな。もちろん、今あげたことが必ず起きるわけではない。しかし、こうなる可能性を持った土地が実は私たちの近くにあると思ったら少しワクワクしてこないか。最後に私がこの場に目を向けるきっかけを少しだけお話すると、意外にも県外学生とのフィールドワークからだった。彼らは関東を中心に活動する学生でおそらくたくさん勉強されていた。歴史、文化、経済、法律、たくさんを知っていた。その土地に住んでいる私よりずっとたくさんを知っていた。そして、それぞれ皆、それぞれからの立場や意見をしっかりと持っていた。彼らと過ごす中で、私の中にある感情が生まれてきた。「なぜ、目をつぶってきたのだろう」「どうして他人事のように考えてしまったのだろう」そこから私の勉強は始まった。そして、ようやくこのような場で自分の先行する分野から意見を述べるできるようになった。皆さんはどの程度今立っている場所について知っているか？自分の得意分野から話することができるか？もちろん、すべての意見が賛成、反対に分かれるわけではない。今回のテーマにあるように、まずあなた自身にとっての沖縄の意義を考えてみて欲しい。すべてはそこからである。

上

園

大学で専攻しているのが、経営分野を学んでいるのだが、私の視点は福祉である。もともと大学に入る理由が福祉のことをしたくて、福祉を運営していく上でマーケティングが必要である、と考え産業経営に進んだので、ちょっと違った福祉の視点を持っていると思う。私自身が福祉について本当に基礎的な自分で調べるといことしかできていないが、私のイメージする福祉の観点から話していく。まず、福祉は誰が対象であると思うか？ちょっとイメージして頂ければと思う。高齢者や、障がい者、子どもたち、サポートされている人たちが福祉の対象であると思うのではないかな。しかし、私の考える福祉はみんな福祉なのかな、と思う。今ここにいる皆さんも。まず、福祉というものを調べたのだが、幸せとか、豊かさを意味する言葉である。このみんなが、という面で基地返還された後に、街をつくっていく上で持っていて欲しいイメージで、必要になるのが福祉で、ユニバーサルデザインという誰もが使いやすいデザイン、バリアフリーという障がいのある人だけが利用しやすいからとかではなく、もともと設計の段階から健常者も含めてみんなが利用しやすいように作るのがユニバーサルデザインである。基地返還後の街づくりにも、このユニバーサルデザインの考え方を取り入れて欲しい。例えば、車いすが通れる幅を作る、のではなく元々道が広いほうが皆にとって良い。ゆったりした環境で緑がいっぱいある街というのは、混雑して人があふれかえるような街ではなくて、

ちょっとゆったりした道路や、広々としたお店がある。障がいを持った人や車いすの方が通りやすいから広く作るのではなく、広く作ったほうが健常者でも通りやすく、使いやすく、暮らしやすい。ボタンなども大きくしたら誰でも使いやすい、と思う。また、この会に当たって事前学習をした時に国際的ユニバーサルデザインというのが良いね、という話になり、外国の方って私たち日本人が暮らしている時に感じなくても、外国人の方にとってはやはり障害があると思う。だから、文字にするのではなく、絵で表記したり、そういうことって誰にでも分かりやすい。大きな設備投資ではなくてもちょっとした気遣いで、今から作っていく街なので、そういう福祉の観点を入れていくとすごく皆が過ごしやすい街になるのではないかな。今回今まで宜野湾市の事とか全然考えたことが無かった。基地返還などもニュースの中の世界だった。でも、私がやりたい、と思ったことで、少し夢のような話になるが、難病者の過ごしやすい街を作りたい。高校の時から考えていた。具体的に私の話になるが、私はSLDという難病を持っていて、紫外線に当たることができない。だから、緑がいっぱいある町とか、雨除けのために少し屋根が多かったりすると嬉しい。紫外線が防げる、というのは私だけでなく、多くの女性の方にも嬉しいことではないかな。またディスカッションの時に、国仲さんが言った「初めて基地に関してポジティブな話題」というのが残っていて、今からつくる街というのは新しい観点を入れて、大きな設備投資だけではなくちょっとした配慮や気遣い、今からつくる街だからこそできる動線作りができる。そうすると今の人たちだけでなく、グローバルな世界になっていく中でも多くの人たちが暮らしやすい街になる。私は福祉という視点を残しながら話していきたい。

## ②質疑応答・意見交換内容

|   |   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|---|---|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 當 | 銘 | テーマに関しては「普天間飛行場の跡地が持つ意義とは」という点で、今からディスカッションしていきたい。先ほど一人一人発表していただいた意見の内容をベースにディスカッションを進めていくが、もちろん大学生であって有名な有識者、というわけではないので少しだけ間違ったことを言ってしまうたり、見当はずれのことを言ってしまうかもしれないが、それは、ディスカッションの中であったり、皆さんからの意見で徐々に良い意見に積み上げていければな、と思っているので、皆さんも参加しつつディスカッションにしていっていいな、と思っている。それでは、ディスカッションを始めていきたいが、最初は、皆の意見を聞いてみての感想から聞いていきたい。 |
| 日 | 高 | 専門的な知識からも、しっかり話をされる方がいるな、と思って聞いていた。私は学生でしかない、という考え方なので、その立場からみると良いな、と思う一方で自分にまだ足りない視点があるな、と感じた。宜野湾市に住んでいるのは、屋良さん一人で他の人は他の場所に住んでいて、私と同じ内地出身の方でも、「宜野湾市の名産は田芋だ」と言っていて、すごいと思い、最初に皆の意見が聞けたのはすごく面白かった。                                                                                                                  |

|   |   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|---|---|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 當 | 銘 | それでは、宜野湾市在住の屋良さん、もう少し詳しく教えて欲しい。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 屋 | 良 | <p>先程、交通渋滞の話をしたのだが、一番私が交通渋滞が嫌い、というのがあるのだが、私が地域経済を勉強している中で、観光産業にとっても関心が強い。先ほど嘉陽さんが言った、「住んでよし、訪れてよし」、これは実は日本観光協会が正式に定めている観光のテーマである。自分は「住んでよし」が先に来ていた点が良いな、と思う。観光の視点でいうと、まず、住むということを前提に考えた取り組みができないと、そもそもそこに、非日常のようなものは生まれない。それでは、ここに住みたいって思わせるにはどうしたら良いのだろうか。それを考えたときに、沖縄県に住む上で一番の問題は交通渋滞だと思う。特に県外出身の荒井さんだったり、日高さんだったり感じているかもしれないが、本当にとにかく不便。例えば、旅行者が訪れる、免許を持っていない。その時点で行先はかなり限定される。美ら海水族館に行きたいが、バスで3時間かかる、絶対に無理。という方多い。そこで諦めたという人の話も聞く。そういったことからきっかけで、それでは沖縄で観光客に来てもらうにはどうすればいいのか、ということ考えたときに、一番身近だった交通渋滞の緩和である、と考えたので、先ほどの普天間飛行場の跡地利用に、交通渋滞が関係する、と述べた。</p> |
| 當 | 銘 | ありがとうございます。屋良さんは、住みやすい街とおっしゃっていたが、住みやすい街についてお話されていたのが、他に上園さんと翁長さん。屋良さんは住みやすいまちづくりとして、交通渋滞の改善を挙げていたが、その点については翁長さん、上園さん、どう思われるか？                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 上 | 園 | <p>住みよい街というのが、交通渋滞が少ない、というのは必要な観点である。沖縄での移動手段は車でないと難しいので、交通渋滞があって、そこに私の視点を付け加えると、歩道を広くとって、車道も広くとる。そうすれば、交通渋滞も無くなる。また、超福祉の観点から言うと、時間に合わせた信号の設置をする。渋滞だったら車を流すようにしたり、そのほかの時間だったら歩行者が安心して渡れるようにする。住みやすい街、というのには絶対に車、というキーワードは必要である。那覇市民だが、朝の渋滞は、大学に行くためにも、とても早く起きなければならない。そこが改善されれば、皆が住みやすい街づくりの一つなのかな、と思って聞いていた。</p>                                                                                                                                                                                                                                          |
| 翁 | 長 | 私も学生として、交通の面で言うと、交通渋滞や交通の手段が増えてしまう、というのがありバスも通っているのだが、乗り継ぎをしないといけなかったりするんで、それが1本にできるようなことが出来たら、学生でも利用できて、便利になるのでは。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 當 | 銘 | 交通渋滞の緩和として、道路を拡充したほうが良いんじゃないか、という意見だったが、私が一つ気になっている点として、鉄道が走るという点であったり                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |

|   |   |                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|---|---|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|   |   | 道路も通るという話であるが、土地を商業施設だったり住宅地として使うのか、それとも道路を大きくする必要があるのか、という点で言うとうどうであるか。                                                                                                                                                                                                         |
| 嘉 | 陽 | それも先ほど言った「つながり」である。全部がつながっている。これもあるし、あれもある、というのが住みやすい街。昨年の 8 月にシンガポールに行ったが、目指すべくは世界一である。世界一の街をつくらないとビジネスは来ないし、住んでも気持ちよくない。それくらいダイナミックなことを宜野湾でしないと、沖縄の自立経済というものはない。だから、よく第 2 のおもろまち、という風に言われるが第一の普天間にならないといけない。だからこの公共交通機関が良くなったから全部 OK というわけではない。それを一挙に全部やることが重要である。             |
| 當 | 銘 | 具体的にはどういったことをするべきか。                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 嘉 | 陽 | やはり、鉄軌道を早く通す。そして、都市機能の拡充である。この沖縄に仕事をするために来るようになる受け入れ体制、これは普天間だけでなく、つながりである。那覇空港がドメスティックとインターナショナルが分かれているのも、はっきり言って疑問である。話は広がってしまうが、そういったソフト面プラス、ハード面の拡充。具体的に言うと、やはり空港からになってしまうが、宜野湾市としてはやはりビジネス地として、ホテルや MICE が行えるような施設があったり、そういった人材育成をするという事や、人材が輝く場所があるなど、そういったものをつくっていく必要がある。 |
| 国 | 仲 | だからこそ、普天間基地だけで考える、というのがまだ狭い。やはり世界一を目指すべきだと思う。そのためにはおそらく、周辺の基地も返還される予定があるものとそうじゃないものを含めると、普天間飛行場だけでなく跡地利用を考えないといけない。そことの兼ね合い、その兼ね合いでまた新しく作れる。もしかすると、普天間飛行場の跡地は経済に特化した街にするとする、そして緑地というのは他の跡地なのかもしれない。そう意味で言うと普天間飛行場の跡地だけで、というのも少し狭い、と嘉陽さんの意見を聞いて思った。                               |
| 瀬 | 長 | 私もお二方と同じで、最初、普天間基地に物流拠点地をつくりたい、と考えていたがよくよく考えてみると、物流拠点地をつくるとしたら那覇空港のほうが良い。だから、普天間基地を考えるという論はあるが、やはりそれを考えていく上では、他の基地や軍港を考えていかなければならない。やはり、それぞれ特徴がある。空港は海に近い。普天間は中南部の中心地にある。牧港の補給基地も海に近い。かつて中国は風水で都市を作っていた。風水というのは、地形を考えて都市を作っていた。ほこりが被るようなものかもしれないが、都市開発をしていく上で根底にあると思う。           |
| 日 | 高 | 都市開発や、全体を見ての開発という話になっているが、先ほどの VTR の中に電車が横に走っていて緑があって道路があつてみたいなシーンがあり、良い                                                                                                                                                                                                         |

比

嘉

な、とは思ったが内地によくある風景だな、と思った。結局器があって人が住んで、広い道路があって、広い歩道、広い道路も必要だと思うが、何が沖縄らしさか、と言われると自分にはよくわからない視点ではあるが、全体を見て考えないと、普天間飛行場だけ考えていったら、よくある内地のちょっと都会みたいな街で終わってしまうのではないか。

今、皆さんの中で全体の話であったり普天間基地だけではない等出てきているが、少しマクロ過ぎるかなと思った。もう少しミクロに考えていってもいいのでは。私がなぜ意見発表でミクロに境界地域について出したのかと言うと、新聞やニュースでよく見る、ゲート前で抗議する風景がある。あれは正直見ていてつらい。あれが、沖縄県民の総意と取られると少し不服である。そういうところではなく、もっと住んでいる地域って、今多分皆さんが話されていることって、行政でいうトップダウン式の上のほうで決めて、下のほうで理解してもらうという形である。私は逆にボトムアップ式に市民の視線から考えて、こういうものがあるエリアがどういう問題があって、こういう風にしたら良いのでは、こういう風にしたらもっと未来が見えてくるのでは、というところにもっと注目して欲しい。例えば、今少し話に出た、歩道と車道の関係性というところで、歩道が広いほうが良いというような意見が出ていたが、では、その歩道の横に立っている商業施設や家屋などというようなところまでイメージを膨らませて欲しい。分かりやすい例で言えば、首里の龍潭通りの方、あそこは景観条例が敷かれて、淡いトーンで、赤瓦を乗せてという形でどんどん開発されて、今ではあそこを通れば昔の風情が感じられる。とは言うが、遡ってみると、赤瓦の家というのは貴族以上の本当に裕福な家庭だけであった。そういうところから考えると、本当にただの赤瓦を載せるだけが本当の沖縄らしさ、宜野湾らしさか。では、極端だが宜野湾市の畑にタム畑を作る所までやる事が宜野湾らしさなのか、車道と歩道の関係性からもこういうことが見えてくる。そういったところまで思いを馳せていただきたい。

嘉

陽

沖縄らしさとは何か？沖縄らしさというのはエゴだと思う。皆さん赤瓦の家に住んでいるのか、と言われると、私なんてコンクリートの家に住んでいる。私が言いたいのは、ON と OFF を沖縄につくりましょう、ということ。沖縄でONになれる場所が宜野湾にあるべきである。東京みたいな感じでも別に良い。少し違うが、世界一を目指すためには都市機能の拡充プラス沖縄らしさ、壊してはいけないものがある。絶対に壊してはいけないものはあるから、それは残しつつ、もっと都市機能を拡充して行って、沖縄に ON と OFF をつくる。沖縄に仕事に来て、アフターファイブは北谷でビールを飲む。サンセットを見ながらゆったりして、海に行く。沖縄ではそういったことができるのではないかな。

屋

良

私も思ったことが、例えばさっき基地の話で役割を分ける、それぞれの特徴を活かす、という話を聞いて考えたことが、宜野湾市の特徴とは何か。私が考えるに、宜野湾に大きなリゾートホテルやアミューズメントパークなど正直いら

|       |   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|-------|---|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|       |   | <p>ないと思う。私の中で宜野湾市というのは、少し寄り道できる場所、少し休憩できる場所、そういった方が宜野湾市らしいと思うから。これは琉球史などを勉強した時に思ったのだが、もともと普天間に宜野湾並松というのがあって、そこに琉球王朝の王様が通って普天間宮ができた。もともとはそういった使われ方をしていた。宜野湾市はそういった少し休める場所であった。だから、なにも無理して観光地にしなくてもいいし、無理して都会にしなくても良いと思う。一番大事なことは、ON と OFF と一緒に少し休める場所になったら良いのかな。無理やり宜野湾市を観光地にしなくても良いのかな、と聞いていて思った。</p> |
| 當     | 銘 | <p>私も言いたくて、先程から経済、観光のトップにしよう、であったり宜野湾らしさとは、という話であるが、もっと広い見え方があるのではないかな。実際、農業や教育、福祉という視点からもまだ見えていない。ミクロとおしゃっていたが、私はマクロに考えても良いのでは。</p>                                                                                                                                                                  |
| 徳元（参） |   | <p>琉球大学で観光産業科学部産業経営学科 2 年次の徳元将義である。先ほどからマクロかミクロかという話が出ていて、とても気になったのが、ON と OFF の話で、東京のように都会化するという話であったが、どういう風に OFF をつくるのか、気になったので教えて頂きたい。</p>                                                                                                                                                          |
| 嘉     | 陽 | <p>今、現時点が OFF だと思う。40 年間ずっと青い海、白い砂浜というイメージが OFF の沖縄であった。ではなくて、ここから新しい視点を持って、沖縄に仕事に来る、という新しい沖縄をつくらなくてはいけない。仕事もできる、それでいて OFF もできる沖縄を作る必要がある。</p>                                                                                                                                                        |
| 徳元（参） |   | <p>先ほど言っていた、非日常の日常空間はどういうことか。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 嘉     | 陽 | <p>非日常すぎると人は疲れる。例えば、ここで銃声が鳴りやまない、非日常である。楽しくない。沖縄に来ているが、らくらく本部まで景色も見ながら電車で移動ができる。これが非日常の日常である。</p>                                                                                                                                                                                                     |
| 徳元（参） |   | <p>場所で分ける、というのは。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 嘉     | 陽 | <p>宜野湾に ON、OFF を作るのではなく、沖縄全体で ONOFF をつくるので、ON を宜野湾に作ろう、ということ。</p>                                                                                                                                                                                                                                     |
| 国     | 仲 | <p>本当に嘉陽さんに賛成である。先程屋良さんが言った宜野湾はこういう場所だと思ふというのが、地元の人にとっての、や沖縄の人にとっての宜野湾。それで嘉陽さんが言っているのは、観光客や主に外からの視点からの宜野湾をどう位置付けるか、という話だと思う。そういう意味で私は、外から、に絞るべきだと思っている。なぜかという、まっさらな土地に今から新しくつくるわけで、沖縄の良さ、というものはもうあるもので、今から沖縄の人、積み上げま</p>                                                                              |

|   |   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|---|---|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|   |   | しょう、みたいなことではない。赤瓦の屋根を乗せましょうって、私だけかもしれないが、作ってそこに置いただけ。どちらかというと、人柄、という広いが、沖縄の人たちのあったかさと言われるが、具体性には欠けるが、やはりそこだと思う。沖縄の良さって何？って全部もうすでにある。自然だったり、赤瓦だったり。そこから、大きな土地が返されたときに、何をするか、というと、私の狭い視野のうちの一つであるが、新しくつくるのであれば、今まで沖縄で実現できなかったものをそこに作っていく必要があるのでは。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 荒 | 井 | 結構、皆さん面白いアイデアみたいなものがあるな、と思ったが、そもそも、それを普天間跡地に実現させる必要があるのか、という所を疑問視していて、商業施設のようなビジネスとしてやるとしたら、他にも返還されるのであればそこでやれば良いのでは、と思ってしまった。そこは、皆さんどう思われるか。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 瀬 | 長 | それに対して、私は意見があって、先ほど普天間基地って十字に東西南北をつなげることができて、そこから発信ができる、と仰っていたと思う。しかし、私は意見の所で、学園都市の開発を提案した。私は、前々からハーバード大学とかを誘致したいと思っていて、なぜかという、OIST が沖縄にはある。しかし、OIST は恩納村にあって山奥で、あそこまでいく沖縄県民はいない。私は、OIST がある利点として、そういった最高水準の学術を感じる、沖縄の人たち、沖縄の子どもたちが身近に感じられるものであればもっと有意義に OIST を活用できる、と思っていた。しかし、OIST が早々に恩納村にできてしまって、今更宜野湾市に移すというのはできない。だから私は、もとの私の構想であるが、アメリカの学術研究のシステムはとても優れていて、企業から基金を集めてそれを研究費にあてている。私はこれを日本にも導入したい、創設したいと思っていて、仮の名前が全国研究支援基金という、国立大学にお金を落とす基金、組織をつくりたい。また、各大学の理系文系問わず、最優秀者を集めて研究をする、というような世界にも通ずる日本国の研究施設をつくりたい。先ほど嘉陽さんも仰っていたがビジネスをして、その後に観光をする。私は、学術、若い人は遊びたがりである。だから学術を学んだ後に休日を使ってダイビングなど OFF の事もできるのでは、そして基地跡地に置く理由は、東西南北をつなげる土地であるということ。そしてそこからどんどん発信していく。沖縄の子どもたちにいい影響を発信していく、という意味での学園都市をつくっていくべき。 |
| 日 | 高 | 学園都市の話が何度か出てきているが、私は筑波に行く機会が多いが、筑波はとてもさびれているイメージ。実際に住んでいる人も、学園都市になったが赤字ばかりで市の経営はとても厳しい。そして、結局利益も出ず、だから全国研究支援の基金はとても良いアイデアだと思うが、筑波の子どもたちがそこで学問に対して強く学問に興味をもっているか、と言われると私はそんな印象は受                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |

|   |   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|---|---|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|   |   | <p>けなかった。特に他の地域に住んでいる子どもたちとあまり差は見られなかったと思う。しかし、これは私の個人的な感想だからどうかとは思いますが、必ずしも学園都市にしたからと言って、子どもたちが学問に興味を持つわけではない。それよりも、いまある琉球大学等での合同サミットをやったりして、今ある大学の連携を強めて、そこでまず沖縄の子どもたちに影響を与えて、その中で他の大学や海外と連携していくうちに場所が必要となれば、それを建てれば良いと思う。場所が必要という声がまだ表面化していないうちに学園都市を設計、という話は少し違うのかな、と思う。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 嘉 | 陽 | <p>私はそうは思わない。需要が供給を生む時代は終わっていて、供給こそが需要を生むと思う。今の那覇の国際線が 50 万人来るだろうという予想を当初立てていたが、もう現在では 100 万人近い。供給が需要を生むから、それぐらいのダイナミックなことをやれる可能性が普天間にはあると思う。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 當 | 銘 | <p>教育という視点から、沢峠さんにお話したい。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 沢 | 峠 | <p>瀬長さんの研究支援基金や、日高さんの筑波の学園都市があまりうまくいっていない、という話を聞いて、OIST が恩納村にあって、我々もふつう OIST に興味を抱かない。そもそも沖縄は大学進学率は全国で最下位で、大学進学者も 3 割を切り少なく、沖縄の大学も多くない。そんな場合、沖縄と琉大が近くにある宜野湾というのは確かに魅力的である。確かに琉大は国立で縛りがあるかもしれないし、沖縄は私立だからいろいろ自由にできる点もあると思う。筑波大学のような日本最高学位を沖縄におく、と言った場合、ON と OFF と関連すると思うが、学術研究施設を仮に沖縄に作ったとして、宜野湾に作ったとしても来る人数は限られている。天才な人たちの集まりになったとしてもそうした人たちは少なく、そういったものに興味関心を持つ人は今後少なくなってくるかもしれないと考えたときに、やはり地元大学同士のつながりでいろんな学生が交流できて、むしろあまりにもレベルの高すぎる研究よりも、今の 22 歳から 25 歳ぐらいまでの人がやっている勉強を地域と学校が連携していくその方がむしろ中学生、高校生の意欲関心を揺さぶると思うし、それが観光などで、県外から色々誘致する、となった時にやはり行政と大学と会社との連携とかを組み合わせれば、すべてのサイクルがうまくいく土地になると思う。宜野湾市は。</p> |
| 瀬 | 長 | <p>外国の大学にこだわっている。先ほども最高学位のものを持ってきて沖縄県民はそれに興味がない、とおっしゃられているが、それはおかしい話で促していくべき。話を聞いていて OIST には興味ない、と言っているが、果たしてその現状で良いのか。現状を一時的に打開するためにやっているような気がする。私はさらに将来のことも考えていくとやはりグローバル化していく。地元の大学だけの連携では沖縄だけになっている。私は外国の影響を子どもたちに与え</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |

|             |   |                                                                                                                                                                                                                     |
|-------------|---|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|             |   | ていきたい。学園都市＝国際交流としての宜野湾市をイメージしている。外国のリアルな情報を子どもたちが否が応でも受けていく。                                                                                                                                                        |
| 佐藤<br>(健・参) | 藤 | 沖縄尚学2年次の佐藤健士である。ONとOFFをつくるというのは良いと思ったが、そこにはやはり沖縄らしさは絶対にいれないといけない。沖縄らしさというのは、人の優しさである。地域で連携して子どもを育てる雰囲気。                                                                                                             |
| 上           | 園 | 外ベースに住んでいる人が何があると住みやすい街なのか、を考えていて、それが福祉でないかと思う。新しく作れるからと言って、新しく作る話ばかりをしている。沖縄は良くも悪くも子どもが多い。今ある現状を改善できるような施設をつくったり、今ある方を基準に人が来ると考えていかないと、作りました、人が来ますという面で、今いる人はどうなるのか、と思った。その案などあれば何か聞きたい。                           |
| 當           | 銘 | 予定では、この後グループセッションであるが、あまりにも議論が白熱しているので、このままディスカッションを続けたいが良いか。                                                                                                                                                       |
|             |   | …参加者（オブザーバー） 了承…                                                                                                                                                                                                    |
| 當           | 銘 | では、このままディスカッションを続けさせて頂く。                                                                                                                                                                                            |
| 沢           | 岨 | 合計出生率や若いうちに子どもを産む人が多い、という話でその社会情勢をつくっていく根幹はやはり教育にあると思う。合計特殊出生率や若い人に子どもが多いなど、そういった話は普天間をどうにかすれば解決するものではない。確かに施設をつくったりすることは大切だが、結局こういった問題は宜野湾だけでなく、沖縄全体の問題である。しかし普天間基地がそういった施設の中心になれば良い。話が普天間基地の跡地でどうにかできる問題ではないと思った。 |
| 屋           | 良 | 今の流れの感想を言いたい。これから自分が宜野湾に住み続けるとしたら、まず子どもの事とか家庭の事を考える。そういったことが考えることができるのが、住んで良しのまちだと思った。最近、結婚や子供のことを考えるようになり学園都市を作るというのも大事だが、もっと子どもたちに何を残すべきなのかも考えていきたい。皆さんはどうか。                                                      |
| 佐藤(NBM)     |   | 感心したのは自分の専門的な視点を背景にして、私の学生時代とは全然違う。テーマについて「誰にとっての」跡地利用なのか。これが皆さんの話し合いの根幹になると思う。                                                                                                                                     |

|           |   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|-----------|---|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 松川(NBM)   |   | 今日は若い皆さんと一緒にこうして考えられる場に入れて非常に感激している。普天間跡地は 481 ヘクタール、浦添のキンザーは 91 ヘクタール、その隣の新都心は 194 ヘクタール。普天間跡地の 481 ヘクタールというのが大きい小さいかというのは物事の考え方次第。ものは考えよう。世界における沖縄の位置、東南アジア、東アジアのおへそに位置している。このように物事は視点を変える、発想を変えるということでどんなにも変化する。私にとって住みよい街とは、東京出身の方の話を聞いて、街づくりの失敗例を聞いた。100 年まちづくり、3 代住める街づくり。長期的に発展する街づくりをしていかなければならない。特に若い世代の皆さん、イスカンダル計画について勉強してみて欲しい。 |
| 當         | 銘 | 誰のためのまちづくりなのか。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 嘉         | 陽 | 沖縄のため。歪な経済構造がある。思い切った政策が必要。だから宜野湾が沖縄の経済の中心になってほしい。沖縄の人は優秀であり、目指せばできる。沖縄のためにどうあるべきか。                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 国         | 仲 | 喧嘩を売るようだが、何を甘えたことを言っているのか？皆さんの考える跡地利用ってだれがお金を出すのかという所が欠如している。誰のためにという問いの答えになっているかわからないが、税収が増えるかどうか、だと思う。それを考えたときに長く住んでもらう必要がある、住みよいまちづくりが必要である、とっていて、誰がそのお金を出すのか、しかもマイナススタート、3000 億という国から出してもらってお金をなくして返還してもらおうという前提が抜けてすぎている。皆さんの案を実現させるためにいくらかかる？                                                                                         |
| 儀 間 ( 参 ) |   | 国仲さんが仰っていたのは、沖縄のために、と考えたときにお金の下りないと思う。もし、国のため、国のロールモデルになればお金を出してもらえる。沖縄は地理的優位性があり東及び東南アジアの物流の中心になれる。4 時間圏内ですべての首都にモノを飛ばせるから。沖縄だけの視点では国からお金もおりない。けど、日本にとっても利益があるようにすればお金も支援してもらえる。沖縄がアジアの中心になれば良い。                                                                                                                                           |
| 沢         | 岨 | 基地があることで、そこで生まれたはずの多くの利益がない。国や行政から援助をしてもらっている、これは確かにありがたいことかもしれないが、今までの逸失していた利益や振興発展を阻害されたので出されて当然だと思う。そして地理的優位性を確保しても再開発ができたところでもまだマイナスであると思う。失われた 70 年をどうやって取り返していくかということ、±ゼロを目指して、プラスになるまで 100 年、200 年かかると思う。沖縄らしさと言っていたけれど、沖縄というのは他の都道府県と違って、世界的な視点を持っている。                                                                              |

|       |   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|-------|---|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 屋     | 良 | マイナスからのスタートは沖縄だけではない。全部一緒。沖縄が今後世界にどう発信していくかという、世界が日本も含めてこれから第3次産業にシフトしていく中で、沖縄はずっと第3次産業をやっている、世界と比べてみたときに、第3次産業の部分では全然力を持っているのではないか。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 参 加 者 |   | 皆さんの話を聞いていて、やはり観光に行きつくのだが、観光が長続きする国は第1次産業がしっかりしている。沖縄がここまで第3次産業で生き延びているのはほとんど奇跡に近い。奇跡的に基地のおかげでお金が下りてくるからかろうじて何とか続いてきている。全部農地にしたらどうか？読谷はそれで健全な経済状態になっている。着実な一歩が大事。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 荒 井   |   | 全部農地にしたら良いのでは、という考えもある。それによって宜野湾らしさも再発見できるのでは。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 日 高   |   | 着実な一歩、それぞれがそれぞれの問題を主張するし、解決策を主張しているが、多分この学生の規模じゃないくらいもっと意見を聞かれて色んな意見を聞いて、色んな生き方をしている人はもっと違う主張をしているだろう。今日コンビニのおばちゃんは宜野湾にスポーツジムが欲しいと言っていた。100人いたら100人欲しいものが違う。それを利用することが着実な一歩ではないか。大きなものをつくるためにももっと沖縄県全体で話し合いを進めていかない限り内地にあるような風景の街のレベルにしかない。しかし、今日のイベントに後輩を誘ったが、断られた。学生は政治に対する意識が低い。けれど、そういった政治に興味を持つことが政治参加であるはずで、政治は自治だから自分の住む街をどうつくっていくかを周りの人との利害を調整して行くものでもある。それをもっとしていかなければならない。もっと多くの沖縄県全体で話し合いを進めていかなければならない。それこそが普天間飛行場の跡地が持つ意義だと思う。沖縄県全体が盛り上がりなければならない行事であるはず。しかし、どう広げていけばいいのか。 |
| 親 川   |   | 今、私も話したくて仕方がない。座っている皆さん、一言でも言わなくて良いんですか、という疑問が出ていて、税金もみんなのものを使ってやる、という話も出ていたが、残る跡地に自分たちで何をつくるか、ということを県民全体で考えることが意義だと思う。もし基地跡地が返還されてそこに何か建った時、話し合いに参加していなかった人は絶対に何か文句をいうはず。私はその人たちになりたくない。動きをだして、ここで思っていることを伝える義務がある。ここからどう動かすかによって意義が大きくなる。                                                                                                                                                                                                                                             |
| 沢 岨   |   | 選挙参加について、ごもっともで、一番選挙に行かない人が決まったものに文句を言う。政治参加＝自治への参加で、その根幹を養うのが教育である。現場では先生たちもそういった政治的な話題をさけてしまう。もっと自分が思っ                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |

|           |   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|-----------|---|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|           |   | <p>いることを言って討論するべき。養わなくてはならない。多くの分野からアプローチの仕方を考えていかなければならないし、このような場が大きくなっていった欲しい。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 上         | 園 | <p>最初、大きなことを言わないといけないのか、と思いつつ、私がやりたいのは、そこに住む人たちがどう変わっていった、どう住みやすいかだから、大きなことをしていく新しいことをしていくというのは良いが、それがあって周りの人そもそも住んでいた人はどうなるのか。今日もっと告知したかったがあまり内容を友達に言えなくて、友達もあまり興味を持ってきていない。私も最初はこの会で何を話せばいいのか全く分からなかったが、話していくうちに初めての前向きな意見、自分たちが街づくりに関われる、自分の意見が本当に反映されるかもしれない、という状況が作られていることがとてもワクワクした。話途中で、そもそも福祉というのがあまり自分事にまだなっていない。福祉がもっと自分のものになって、今はいらないが先のことを考えた街づくりをしていかなければならない。福祉はみんなに共通する、という事を広めていきたい。</p> |
| 翁         | 長 | <p>先月全世代ディスカッションに参加して、40代50代の人たちは若者目線で街づくりを考えていきたい、と言っていた。若者は任されているけど、もっと自由に暴れていくべきじゃないか、もっとオープンにして活動していくべきじゃないか。もっとシンプルにどんな街が良いとか理想をもって話し合うことも良いことだと思っていて、美術の時間などに跡地について考える時間は取られているのでそれを活かせるような講演会活動などをもっと増やしていくと、もっと盛り上がる。今日も正直時間は短かった。だからこそ頻繁に開催していくべき。</p>                                                                                                                                          |
| 安 森 ( 参 ) |   | <p>普天間飛行場の跡地が持つ意義はこの世代が、考える場とエネルギーで作ったのではないか。大人が話すと様々なことが障害となって結論がでにくい。ただここは良くも悪くも勢いでいける。全世代の意見を取り入れようとするのは良いが、なかなかまとまらない。勢いで話して勢いで結論を立てる。その時に初めて本音の反動がかえって来る。そして、その反動を受け止める覚悟があるのか、が一番重要。そしてその批判をここにいる大人がバックアップして支えていければいいと思う。まず、結論を出して欲しい。</p>                                                                                                                                                         |
| 国         | 仲 | <p>ありがとうございます。私は10人が責任を持てば結論だと思っていて、自分が本当にそう思うんだったらやる。そうしないと誰もついてこないのは当たり前。私は宣言する。まち未来課の二人を巻き込んで絶対やる。絶対関わってもら。そこから波及が生まれる。どう巻き込もうかなと考える人が多すぎる。教育や観光や……。そうではなく、冒頭で主語をIにしましょうって言ったのはそこで、人は結果についてくる。動く責任と覚悟があって、私は動く。せ</p>                                                                                                                                                                                  |

|   |   |                                                                                                                                                                     |
|---|---|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|   |   | めてここにいる 10 人持とう。                                                                                                                                                    |
| 當 | 銘 | 誰が住んで、誰が動くのか。                                                                                                                                                       |
| 屋 | 良 | 私は公園を作る。そういう感じが大切。自分が住みたい街を選ぶのではなくて、自分でつくる。これがとても大事。                                                                                                                |
| 上 | 園 | もっと難病にたいする理解が深まる。自分が言い続けることで難病に対するハードルを下げたい。みんなが使いやすいデザインや機能を考慮した街づくりの重要性を私はずっと言い続けたい。                                                                              |
| 嘉 | 陽 | 私は将来政治家になる。目標は強い沖縄をつくること。多くの沖縄の強豪と呼ばれる地域の人たちは沖縄について知らない。沖縄はまだまだ弱い。光を観るで観光。私は沖縄の観光の「光」を「幸」にして、幸せが集まる場所にしたい。                                                          |
| 瀬 | 長 | 2 番煎じだが私も政治家志望である。学園都市をつくりたいと言っていたが、実は既に構想を練っている。沖縄 21 世紀ビジョンからグローバル頭脳ハブというものがある。さらに沖縄は国際観光拠点となっていて、多くの法律が沖縄に適用されている。この法律を活用して学園都市をつくっていききたい。そして優秀な人材を沖縄から輩出していきたい。 |
| 當 | 銘 | 普天間飛行場跡地の利用方法を考える前に、「跡地はどのような意味があるのか」という本質を考え、発展させていければと思う。本日のディスカッションは政治の話では無く、跡地利用を考えた未来志向の（わくわくする未来を考える）ゆんたくの場としたい。                                              |

#### (4) 「まち歩きとまちづくり座談会」の開催

##### 1) 取り組みのポイント

普天間飛行場の跡地利用に向けては、周辺市街地と一体となった整備が必要となる。市民にとって跡地利用は「地権者の問題」という意識が根強いいため、跡地利用と併せた周辺市街地の整備に向けては、まずは市民のまちづくり機運の醸成を図る必要がある。また、将来的に跡地利用を契機として宜野湾市全体のまちづくりを検討していくためには市民によるまちづくり議論が展開できるよう、段階的にステップアップできる取り組みを継続的に実施していく必要がある。そこで、今年度はまず取り組みのスタートとして、自治会を対象に自身の住む地域のまちづくりの点検と評価を行う「まち歩きとまちづくり座談会」と題したワークショップを開催することとする。

##### 2) 実施概要

###### ① 「まち歩きとまちづくり座談会 in 上大謝名」

○開催日時：平成27年3月8日（日） 13：30～16：30

○参加者：16名（上大謝名自治会役員 他）

○プログラム：①開会 ②事前説明 ③まち歩き（70分）

④まち歩きの取りまとめ（60分） ⑤発表 ⑥閉会



写真：まち歩きの事前勉強のようす



写真：まち歩きのようす



写真：まち歩きの取りまとめのようす



写真：まち歩きの結果の発表のようす

②「まち歩きとまちづくり座談会 in 宜野湾」

○開催日時：平成27年3月15日（日） 13:30～16:30

○参加者：15名（宜野湾自治会役員、宜野湾郷友会、「若手の会」 他）

○プログラム：①開会 ②事前説明 ③まち歩き（70分）

④まち歩きの取りまとめ（60分） ⑤閉会



写真：まち歩きの事前勉強のようす



写真：まち歩きのようす①



写真：まち歩きのようす②



写真：まち歩きの結果の取りまとめ

みんなで考えよう！ 宜野湾市の夢のあるまちづくり  
**上大謝名まちづくり点検マップ**

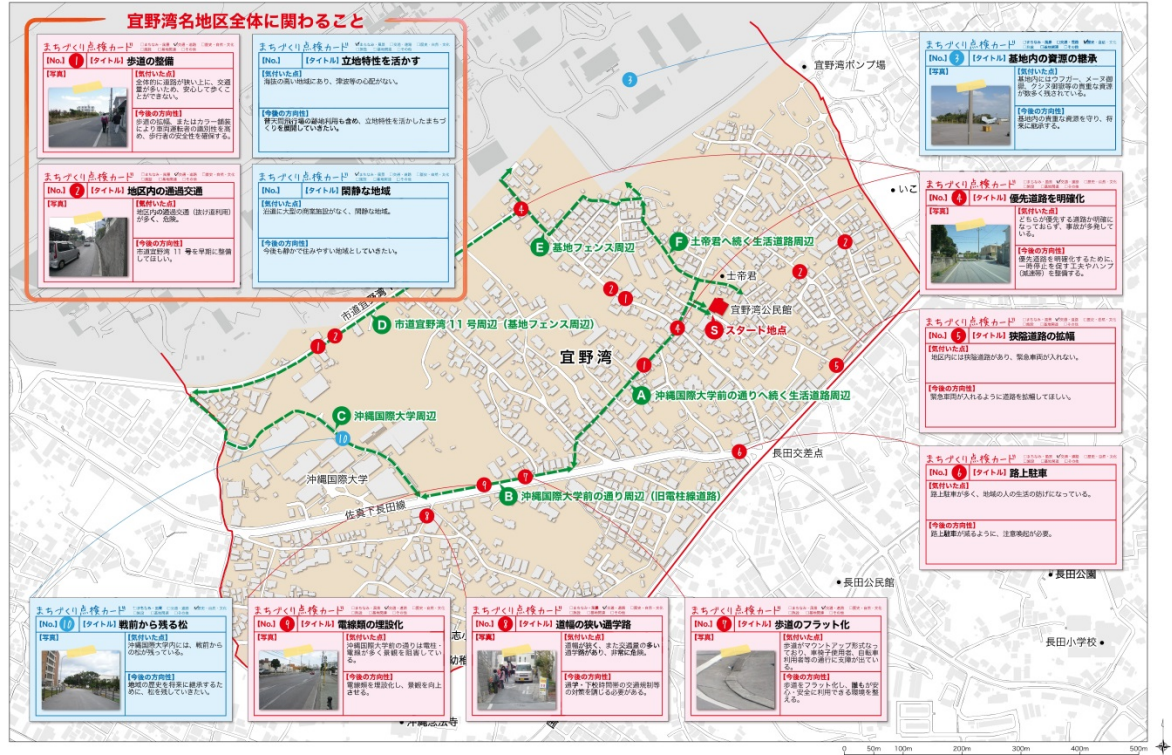
まち歩きとまちづくり座談会 in 上大謝名



図：まち歩きとまちづくり座談会 in 上大謝名点検マップ

みんなで考えよう！ 宜野湾市の夢のあるまちづくり  
**宜野湾まちづくり点検マップ**

まち歩きとまちづくり座談会 in 宜野湾



図：まち歩きとまちづくり座談会 in 宜野湾点検マップ